

昨年の販売額上回る



南八甲田高原野菜生産組合（小林喜代勝組合長）は11月21日、平川市のアップルランドで販売反省会を開きました。

今年産は8月の大雨や台風の影響で、収穫量が減少したが、販売価格が上昇したことから、販売額は主力の大根、にんじんをはじめ、全体で約4億3000万円となり、昨年の販売額を上回ったことを報告しました。



あいさつをする小林組合長（左）

第31回黒石りんごまつり



11月19日と20日、黒石青果センターは「第31回黒石りんごまつり」でりんごの販売を行いました。県内各地から訪れる消費者に「JA管内で栽培されたりんごの魅力」を伝えることを目的とし、対面販売を行いました。りんごは贈答用、特選品の「サンふじ」（1kg／5kg、10kg）、家庭用サンふじ（1kg／20kg）を販売。来場者は、じっくり品定めしながらりんごを買い求め、2日間で382ケース販売しました。



来場者が購入したりんごを運ぶ職員

JA青年部交流活動



みなみ地区青年部と和歌山県の「JA紀南青年部」は11月20日、田舎館村の「収穫感謝祭＆シクラメン市」で、和歌山県の特産品の販売を行いました。「JA青年部交流活動」の一環として行い、糖度11度以上ある「天みかん」や紀州産梅干しなどを販売しました。

両青年部は平成16年の「JA全国青年大会」から交流を開始し、互いにりんごやみかんの宣伝販売をするなど交流を深めてきました。



対面販売を行う「JA紀南」の青年部（右）

若手職員体験実習



「JA」は、若手職員の教育の一環として体験実習を実施しました。農業に対する理解を深め、組合員や直売所を利用するお客様とのふれあいを目的として、8月から11月にかけて行いました。職員は、道の駅ひろさきサンフェスタいしかわで対面販売や農作物の袋詰め作業などを体験しました。



農作物の袋詰めをする職員